

科学技術政策担当大臣と有識者議員との会合 議事概要

- 日 時 平成 23 年 1 月 27 日（木）10:00～12:21
- 場 所 合同庁舎 4 号館第 3 特別会議室
- 出席者 阿久津政務官、相澤議員、本庶議員、奥村議員、白石議員、青木議員、中鉢議員、金澤議員、泉統括官、梶田審議官、岩瀬審議官、大石審議官
- 議事概要

阿久津政務官挨拶

- 阿久津政務官 皆様、おはようございます。ただいまご紹介いただきましたこのたび第二次改造内閣で科学技術担当の政務官に就任をさせていただきました阿久津幸彦でございます。大変お世話になります、よろしくお願いいたします。

科学技術は、面白いですね。実は、私は中学 2 年のときに、化学で行き詰まって、それから高校 2 年で、物理学で行き詰まりまして、科学の分野では、自分自身は文系の人間というふうに頭から決めてしまっておりました。政治の世界に入りまして、総理になる前から、政治家菅直人と親しく付き合わせていただく中で、たびたび科学技術について子どものような目をして、熱く語る菅さんに遭遇したことが何度もございます。科学はそんなに魅力があるものなのかと、そのころは思っていたのですけれども、このたび科学技術担当にちょうど 1 週間前に就任させていただいて、もうにわか勉強も甚だしいのですが、この 1 週間、科学と触れ合う中で、これは面白いなと。

私は、白石先生と同じ、レベルは違いますが国際政治が専門なのですけれども、あらゆる部分で国際政治、さまざまな分野とクロスして、そのことによって新たなものが見えてくるといような入口の入口の入口まで来つつあるのかなと思っておりまして、今回、有識者議員の先生方と親しく懇談の機会をこれから継続的に持てるということで、胸をウキウキさせながら期待させていただいている次第でございます。

私の前任者の和田政務官並びにその前の担当でございました津村前政務官とも引き継ぎ並びにヒアリングを行わせていただきましたので、当面、この科学技術の分野で直面するさまざまな政策課題、政治課題については理解をある程度させていただいているつもりでございます。

もちろん諸先輩方の方向性をきちんと受け止めながら、私なりの感性で平野副大臣、玄葉大臣ともご相談をしながら、菅総理の並々ならぬ科学技術にける思いを私はよくわかっておりますので、それぞれの課題について大胆にかつスピーディに決断していきたいと考えております。

それにあたりまして、先生方には何しろ小中学生にわからせるような試練の場を与えるかもしれませんが、どうか私にわかりやすくさまざまな課題についてご説明いただきながら私も政治家なりの感性でその問題に真正面から取り組んでいきたいと考えております。ご指導のほど心からお願いを申し上げます、新任のご挨拶にかえさせていただきます。ありがとうございます。

議題 1．科学技術政策の最近の動向について

< 相澤議員説明 >

- 本庶議員 今、相澤議員から全体像のご説明をいただきましたが、要するにこれから我々の使命はこのような大枠を具体的にどのような形でインプリメンテーションと言いますか、実行していくかという課題になるうかと思えます。これは我々の努力も非常に重要であります。政府全体の中における科学技術政策の司令塔の構築の仕組み、総合科学技術会議の改組ということ言われて非常に時間がたっております。昨年末の本会議でも菅総理に申し上げたように、やはり改組という方針を打ち出されたのであれば、具体的な中身と時期を明確にさせていただくことがこの第4期の計画を実行していく上でも極めて大きな方向性とビジョンを示すものでありますから、政務官におかれましてぜひこの点を再度政府の中でご確認いただけたらと思えます。
- 奥村議員 私は実は産業界からこちらの常勤議員に就任しているものでございます。後ほど事務局からご説明があるかも知れませんが、オバマ大統領の一般教書を拝見しても非常にクリアに出ていると思うのですが、科学技術分野というのはそれ単独では国の力ということにはならない、ということです。やはり産業振興、あるいは雇用創出政策と結びつけて国民目線から見たシナリオで科学技術政策をぜひ推進していただきたいと思えます。当然のことながら教育問題にも深く関係いたします。

大事なことはやはり国民に一番わかりやすいという意味で、科学技術政策を進めるのであれば、わかりやすいシナリオの中の一環としての科学技術という位置づけで、ぜひとも政策推進をお願いしたい。
- 白石議員 もうお2人が重要な点を指摘されましたので、1つだけつけ加えさせていただきますと、第4次の基本計画の中には、安全保障という言葉が入っております。それはやはり安全保障についても科学技術のことを考えずには安全保障は実はもうできないし、ご承知のとおり日本単独で安全保障にかかわるような体制をつくることもできない。そういう中で、例えばその分野における国際的な協力ということもかなりはっきりと安全保障政策と科学技術の両方に関わる問題としてやはり目配りし、デュアルユースの技術等についてもきちんと国として考えておかないと、実は昨年暮れに、私なんかから言いますと残念ながら、もう一歩進んでいただきたかった武器輸出三原則の問題にしても、一番有利な形でもっていくには、デュアルユースのところをどう考えるか。そのためには民生と防除と両方の科学技術についてどう考えるかということが大事になってきますので、ぜひそういう広がりもあるということを踏まえていただければと思えます。
- 中鉢議員 私も産業界の立場でこれに出席させていただいてから1年になります。その間に、科学技術で、新成長戦略や今相澤先生がおっしゃったようにアクションプランとか、新たな展開を見た1年だったと思えます。産業界から見ますと事業の成長戦略と同じで、科学技術の成果物であるイノベーションに対して投資を行う、できれば今の日本の状況を考えますと国内立地が望ましいと。国内立地をし、そして雇用を創出する、これが私は1つの形だと思えます。

また、イノベーション創出が国際競争力の源泉になると思いますが、各国が競って科学技術に対するプライオリティを上げて予算配分をしているというのが現状だろうと思えます。韓国においても中国においてもそうであります。ましてや、インド、アメリカにおいてもそうなっています。

したがって、科学技術行政の重要性というのは、重要度が必ずしも相対的に高く位置付けられていない今の時期こそ、実は重要性が以前よりも増していると思いますが、その役割を担うところとして、総合科学技術会議があると思います。ですが、残念ながらこの1年間でいろいろな活動をメディアに公開することによって、いろいろなところから司令塔機能が発揮されてないという批判を受けています。

1年前に改組ということが言われていました。今の機能では不十分だといわれていながら、この状況が1年間、何の改善もなされていません。これは総合科学技術会議のメンバーの問題なのか、あるいはそれを仕切っている行政側の問題なのか、これを明らかにしなければいけないところがあるかもしれません。

科学技術が大事であると言われていて一方で、司令塔機能が発揮されていないという構造がずっと続くという異常さをやはり認識すべきだろうと思います。結果として、国民の期待に私は答えてないと思います。これはやはり十分に反省すべきところではないかと思います。

一方で、司令塔機能とは一体何なのだ、何をすれば発揮していると言われるかという定義から、よかれと思っていろいろやっていることが国民からの批判にさらされるというところがあります。

それから、PDCAのお話が相澤先生からがありました。PDCAの主語は誰なのかというところ、例えばイノベーション推進に関しては、第4期基本計画のベースとなる答申の中で、戦略協議会という仮称でなされたところに主語を仮置きしていますけれども、その中身がまだ明らかになっておりません。したがって、PDCAの、Pは総合科学技術会議、基本専調の中で最終案がつくられましたけれども、以降のDCAがどうなされていくのだという、推進する主体が明確になっていないので、今後議論される部分は相澤先生が今お話しされたように、これがポイントになってくるなという感じがいたします。

○金澤議員 先ほど、本席議員がおっしゃったことにほとんど類似いたしますけれども、改組の問題が解決されないまま今日に至っていることは大変遺憾だと思います。

その改組ということを前提に私はちょっと立場が違うものですから、学術会議から提言ではなくて勧告を出させていただいておりまして、それはもともとの基本になっております科学技術基本法を改正してほしいということを申し上げておりますので、既に総理に渡っておりますから、どうぞご検討いただきたいと思います。この会議の改組に絡んでおりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○青木議員 私は経済学者なのですが、ここでもう2年ぐらい勉強させていただいてどうもありがとうございます。

それで政務官にお願いをしたいのですが、科学技術というのは奥村先生が国民目線でおっしゃいましたけれども、日本の国民全員の将来を担うものが科学技術だと思います。それでこの6ページにも社会と科学技術イノベーションとの関係深化と書いてありますけれども、そういう点で特に政務官にリーダーシップをとっていただいて進めていただきたいと思います。

今日は、今榮議員がいらっしゃらないので私が唯一の女性なのですが、若者が次世代を担う、10年、20年先の科学技術を担うのに対して、女性の研究者の多くは潜在的な即戦力だと思いますので、その促進もよろしくお願いいたします。

○中鉢議員 もう1つだけ、いずれまた議論になるかもしれませんが、先ほどの奥村先生の話の中にもありました国民的目線、視線、アウトリーチ活動を含めた国民との対話ですが、こ

れがいささか私にはまだわかりきれてない、100パーセント理解できてない部分がございます。国民的視点というものを政治家は、非常に重要視されます。しかし、そのときの国民というのは主権者たる国民ということを行っているのか、こういうところで議論している専門家、有識者ということに対しての、非専門家の立場としての国民と言っているのかということが多少曖昧に使われることが多いと思います。

国民が主権者として最終的にチェックする上で、それに耐えられるものにするという仕上げをやるのか、あるいは、専門家の議論をもっと翻訳するということなのか。国民との対話といったときに、この役割が説明責任なのか決定責任なのか承認責任なのかということについて、国民という名にすることがどうも混乱を誘発する原因になっていると思います。政務官にはこの国民的視点というもの、新しい政権においても非常に重要な点だと思いますけれども、その国民とは一体何なのだとすることをぜひ明確にされて議論していただきたいと思います。

○相澤議員 いろいろな立場からのご意見をいただきました。それで、私が冒頭に申しましたように、今年の総合科学技術会議としては、非常に重要なことはまず第4期の科学技術基本計画に盛り込まれる内容を実施に移していく体制をきちんと整備すること。ということが挙げられます。

もう1つは、その中にもかかわりますが、科学技術関係予算のここにおける司令塔機能、これをどう実体化していくかというところであります。この2つが大きな課題であります。もう1つ、今回の第4期科学技術基本計画は新成長戦略と密接なる連携で進めてまいりました。

ところが、この一体感のある進め方の中で、今度は現実これをどう実施するかというところで、これは国家戦略室が新成長戦略を推進するところで、科学技術政策を十分に位置づけて、重点化すべきところを推進していただければというふうに思います。

このところで、国家戦略室との位置づけということが、総合科学技術会議の改組の機能アップということにも深く関わる場所ではないかと思っておりますので、その辺も大臣政務官におかれましては、十分留意していただけて進めていただければと思っております。

それでは、ただいまのご意見等を大臣政務官におかれましては、十分ご理解いただくことをお願いいたしまして、この議題は以上とさせていただきます。

議題2．マクロでみた日本の科学技術動向

< 科学技術振興機構 林上席フェロー説明 >

○本席議員 この幾つかのパーツに分かれています。最初の雑誌のところは、これは政策研のほうでもかなり一生懸命やっておられて、かなり内容的に重複しているなと思います。この分析は少し注意しなければいけないのは、1つは平均値で出てきていて、それから基本的にトムソンが持っているデータを加工することになるので、そのところはやはり大きな問題で、もう1つ、エルゼビアのスコパス、そういうものとの比較とか、もう少しこの部分に関しては、独自の深い解析をしたほうがいいのではないかと思います。

それから、この後の技術のところはいわゆる研究者のフィーリングというのとそれから企業レベルでの実際、それは公表してない技術とか、そういうレベルの比較となると

なかなか難しい。だから、国力という場合はそれを含めた評価になるので、やはりそのところをどういうふうにされるのかということはやはりまだ課題として残るのではないかなという気がいたします。

- 林上席フェロー 本席先生がおっしゃったとおりで、最初の部分は我々がやったというよりもむしろ今先生がおっしゃったように、政策研のデータを確認しただけです。それから、後のほうの話は、これは例えば中国の研究を随分いろいろ戦略センターでもやっているのですけれども、最初やはり言われたのは、お前らスパイかと。我々はスパイをやる気は全くなくて、実際は公表データを中心に議論する。ただ、先生おっしゃったように、公表データがどうしても、企業が持っている本当にコアな部分が出て来ない可能性があります。しかし、私はそれでもいいと思っています。それをある程度見ながら、それを自分たちでつけ加えて議論すればいいと思います。大局はこれで見られるのではないかとこのことでやろうとしています。ただ、それでもまだ全然データを集め切っていません。これからもう少しそれをやる必要があると思います。

- 奥村議員 同じようにコメントです。毎年 J S T がこういうレポートを出されて大変参考にしているのですが、お願いの 1 つは、研究成果はインプット（資源投入）と並記して出していきたい。研究費、研究者の数、それらとアウトプットとは相関があるはずなので、並行してお示しいただきたい、というのが 1 つです。

それから、この産業技術力というのは非常に要注意の言葉だと私は思っています。むしろ産業の、国によってのあり方、状況が全く違う中で、本当に技術力だけを見ているのかということです。産業のあり方が国によって随分違うので、そのことを合わせて併記していただくということがこういうデータを理解するときに重要ではないかと思えますので、ご検討をお願いしたい。

- 林上席フェロー 確かにインプットの話を中心にデータを、一般論で非常にマクロなデータはあって、それを示しているのですけれども、例えばメモリーのところにとれぐらいお金を投入するか。これはなかなか難しいです。それは議論したいと思います。

それから、産業技術力の話は実は我々も産業競争力と産業技術力は違うのです。これも非常にはっきりしているのは、韓国は低く出ています。だけどサムスンの今の強さは世界的に認められているわけですから、サムスンの強さがどうして出ないのかという議論があるので、それはやはり今先生がおっしゃったように、産業技術力とそれを取り巻く、企業化して製品化して売るところのものとは違う気がします。ただ、それを我々がやるかと言うとこれは議論があって、多分そこは経済産業省のいろいろな、経済産業省自身とかそういうことと協力しながらやっていく必要があるかもしれません。だから、そこはこれからの連携の話になるかと思っております。

- 相澤議員 それでは、そのほかのご質問、コメント等については直接やり取りをしていただければと思います。

今日は、お忙しいところありがとうございました。

議題 3 . 平成 23 年度科学技術関係予算編成プロセスを踏まえた今後の課題について

< 須藤参事官説明 >

- 中鉢議員 1 年やってみて、例えば資源配分方針の基本指針とか国民的目線という部分で、わか

りにくいところがありました。「方針の基本指針」という、多少わかりにくいワーディングも一因だったように思います。また、振り返ってその基本指針を出した効果はどういうふうになっていたのだろうか、方針と何が違うのか、ここは少しわかりにくく、私自身も全て把握できていないところがあります。どういう効果があって、どういう対応があったのかというのは少しわかりにくい感じがしました。

それからもう1つ、初めてアクションプランを、またその中で施策パッケージというものをつくりましたが、アクションプランのグリーンとライフのパッケージですが、グリーンとライフの寄せ集めになってしまっている、つまりグリーンかライフか、あるいは別の分野かということの中からグリーンとライフを重要分野にしたことはよくわかるのですが、今度はグリーンの中での優先順位づけが多少総花的になってしまったのではないかという感じがいたします。ですから、アクションプランの出し方、こういう出し方で何を期待して、どういう作業を伴うのかということがどうもわかりづかった感じがいたします。

それからもう1つだけ、当初は予算化について、早期に重要分野を選定し、優先度の判定を行うということで、通年化を目指して1年間やってきたと思いますけれども、結局は11月下旬から12月に集中して議論が行われる、予算化のプロセスは、誇張した表現を使うと、11カ月間貯め込んで、最後の1週間で決まるという印象がありました。やはり財務省と早い段階できちんとすり合わせていくというプロセスがもっと実のあるものにするのではないかと思います。結局は財源の問題で、優先度が決定に至る段階で、優先度が多少変わっているところもあったのではないかと思います。

今年は、例外的に政策コンテストとかいろいろなものが23年度に対してありましたが、やはりもっと財務省とのコミュニケーションをとるということが大事なのではないかという感じがいたします。

○相澤議員 それぞれ大変重要なご指摘だと思います。先ほど資源配分方針の基本指針という非常にわかりにくい、それと同時にその前にあります当面の重要課題、こういうようなものをセッティングしているわけですが、これ全体をそれぞれのあり方をもう一度検討し、次の年にはどうするのかということを策定することが必要かと思います。あと個別のところでのご指摘のところも十分にこれからの推進のところに活かしたいと思います。

○奥村議員 2点申し上げたいと思います。いずれもアクションプラン関係なのです。1点目はいわゆるメリハリをつけるという表現の「メリハリ」の範囲なのですけれども、残念なことに増査定という範囲はないし、よくて減査定のほうしかない。本当にメリハリをつけるのであれば、ある府省のある個別施策が大変よければ、思いきって倍増するとか、そのぐらいのメリハリをつけるような方向で検討しないと、私はこの施策の真髄は発揮できないと思います。

今までの「S、A、B、C」の範囲内で、アクションプランに入っている個別施策をまた「S、A、B、C」と評価づけをやっている現状は大きな政策的効果は生まないと思います。したがって、大きな予算の移動も起こり得る、そのぐらいの覚悟でやる必要があるのではないかと思います。大臣のお力を借りてやる、そのぐらいのことが必要ではないかというのが1点です。

それから、もう1点はやはりアクションプランですが、大きな予算の移動を伴うことまで想定すれば、施策パッケージがもう少しシナリオになっている必要があると思います。関係する個別施策を相互比較して優先度付与しているのが今回作業の印象で、これでは先ほど申し上げたような大幅な予算移動まで値しないことになるので、きちんとし

たシナリオにしないといけない。例えば再生可能エネルギーをきちんとやろうということであれば、太陽光、バイオマスなど個別技術領域を超えたところでの共通課題、具体的にはその再生可能エネルギー自体に持続性があるのか、コストが将来リーズナブルなレベルに到達できるポテンシャルの有無、それを実現されるような施策内容になっているのか、が議論のポイント。

そういうふうな断面で捉えたときに、優先順位の高いところには思いきった予算投入を図る。シナリオ化して予算投入を大胆にする。そのぐらいのことを検討しないと、めりはりがない。これを我々はもう一度今回の反省点として議論したいと思います。

○白石議員 先ほど中鉢議員が言われたことに関連するのですが、アクションプランというのが昨年始まりまして、ここで言いますと当面の重要課題及び基本指針のところの位置づけがぼけてきているというのが恐らく現状ではないかと思います。私自身は、先ほど奥村議員が言われたポイントはすごく大事なポイントでこのところをどうしていくかというのが大きい課題だということはよくわかっていますが、同時にアクションプランというやり方そのものはそれがなかったときに比べるとやはりかなり大きい改善ではないかと考えていますので、当面の重要課題と基本指針のところはアクションプランをどういう形で特定し、拡大して、もう少し有効なものにしていくかということを念頭に置きながら、このところの位置づけをするというのがいいのではないかと思います。

○相澤議員 この重要課題というのと資源配分方針の基本指針、この位置づけは当面の重要課題というのは必ずしも予算にかかわることではないということで、総合科学技術会議が科学技術政策上進めるべき重要課題ということを整理したものでした。それで、資源配分方針以下のところに挙がっている項目が直接予算編成にかかわることではあるのですが、アクションプランというプロセスが入ってきたので、こういう立て方がいいのかどうかというところの整理が必要かと思います。

○中鉢議員 関連ですが、23年度予算案、23年度だけとは限りませんが、第4期の議論で、結局GDP比1%の表示がペンディングということが続きました。これは4期という5年間の話ですが、このことはやはり単年度にも影響してくると思います。ずっと議論があったにもかかわらず、ペンディングが12月の中旬まで続いたということはやはり財務省とのコミュニケーション、結果的に予算的な裏づけがないと実行に移せないというこの状況を何とか打開する工夫を私はするべきだと思います。ややもすると総合科学技術会議が財務省の計画枠に入れるための正当性、合理性を証明するようなそういう役割を果たさせられているのではないかと。ある意味での枠内に入れるようなことは本来的に司令塔機能ではないのではないかと思います。

先ほど、奥村議員がおっしゃったようなめりはりということが、予算範囲に入れるというふうに見えなくもありません。このことがやはりメッセージ性が欠けている一因になっているのではないかと思います。

○金澤議員 別の観点でよろしいですか。資料1のアクションプランのところですが、このアクションプランの議論が始まったところから感じていたのですけれども、やはりこれは内閣府と各府省とのやり取りという意味で、非常に意味があったと思うのですけれども、実際に始まってみますと、多分横の府省同士の連携というものが恐らくキーになるだろうと思います。

検証が必要と書いてありますけれども、これが非常に大事だと思います。で、その仕組みがどうなっているかは全くわからないので、どこかで事業が始まって早い時期に、つまり1年やたって、2年たったところで、1年でもいいですが、8か月、9か月たっ

たところで、結局何も横の連携がうまくいっていませんね、では困るわけですので、最初のスタートのところから、やはり検証をしておくべきだろうと思います。

また、アクションプランというのは、ここにありますように府省連携が必要なものに
限ったと書いてありますけれども、どうもそれだけかどうかちょっとよくわからないで
す。そうではないのではなかったかと理解していますので。

- 中鉢議員 関連のコメントですけれども、おそらく事務方でいろいろな技術のロードマップをつ
くられたと思います。例えば、各省の中でグリーンだったら、バイオマスはこうだと。
このころに実現するというマップがあるわけですが、それに基づいていろいろな
下調べをしたり、府省の連携、アクションプランの施策パッケージについては、私はあ
る程度、府省連携とか位置づけみたいなのはあったと思います。ですが、それ以外の
ものについては、なかなかそういう形跡が見られなかったという印象です。これはあわ
せて考えますと、総合科学技術会議の中に技術ロードマップみたいなものをなして議論
するのか、ありで議論するのかというのは重要なことで、ないわけではないけれども、
全府省共通のものがないと思います。

私たちがいろいろ議論した中で、各省のいろいろなところに加え、ここの内閣府に出
向している民間の人たちも一緒になって、そういうマップをつくって、それを参考にし
ながらいろいろなことを考えられたと思います。こういうものもある一方で、財務省に
は財務省独自のマップを持っているのではないかという感じがします。アンチョコとい
うわけではありませんけれども、そういうものはやはり最終的には私は共有すべきだ
と思います。相手はアンチョコを持って、我々が何も持たない中で議論を行うと、とき
は一貫性に欠ける議論をするかもしれません。少し効率の悪さというもの、例えば先
ほどのアクションプランの中でいろいろ総花的になっているのは、個々の議論がいつ実
現してどれだけのインパクトがあるのだということを、実はどこかの省、どこかの係がつ
くっているはずで、このことを私はシェアすべきだろうと思います。

- 相澤議員 それでは、本日は少し時間も迫ってまいりましたので、これで終了させていただきます。
これは、継続的に議論を重ねてまいります。

議題４．科学技術振興調整費による実施課題の中間・事後評価

（個別の審査に関する内容であるため非公開）

（以 上）